

wish

前橋市手をつなぐ育成会報

●●●ウィッシュ

ホームページアドレス <http://m-teotunagu.moo.jp/>メールアドレス info@m-teotunagu.moo.jp

携帯TEL 080-7744-4300



○発行所/前橋市手をつなぐ育成会 前橋市東上野町 459-1 前橋市立前橋特別支援学校内 ○発行人/塩崎政江 ○印刷所/マルエー印刷



「障害のある方の健康管理」研修会開催 (おしゃべり交流会拡大版・親なきあと相談会の併催事業)

知的や発達に障害のあるご本人で、心身の不調を周囲の人に伝えることが苦手な方は、少なくありません。そういった方を支える家族や支援者にとって、日頃から健康に留意し予防的な行動を継続していくことが、大きな責務であるとは十分にわかっていながらも、実際には困難な部分も多く、悩みの種になっている方も少なくないのではないのでしょうか。

そんな日々の課題に、少しでもヒントをいただきたいと考え、今回の研修を企画しました。

令和6年1月9日、障害のある方の健康管理に永年携わってこられた看護師で社会福祉士でもある、根本昌彦氏：国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究員（看護師）／参事（ターミナルケア担当）を講師にお迎えして実施しました。

福祉施設での観察内容と健康管理体制の実情や課題、感染症対策、多量の薬剤管理等々支援上の課題を詳細にご説明いただき、そのうえで家族として支援をしていく上での課題解決に向けたヒントを具体的にお示しいただきました。良い食習慣や衛生管理、排泄や睡眠習慣の把握、不調の訴え方や把握の仕方等、健康管理全般について、大変多岐にわたってご説明いただき、あらためてその大切さを認識するとともに、一つ一つの項目について、もっと時間をかけてしっかりと学ばないといけないと感じました。

おしゃべり交流会は毎月1回(概ね第2火曜午前中)前橋市総合福祉会館で！

令和5年度は「後見人制度」「グループホーム」「兄弟のこと」など



その月のテーマについて、日頃の感じている疑問や悩みごとを話したり、同様の課題を乗り越えるために奮闘した経験談などを語り合う場として開催しています。そして年に1回程度、特にニーズの高い話題について、専門家をお招きして学びの場も開催することを目指しています。

新年度のテーマは、会場で参加されている皆様からのアンケート等を参考に、5月頃までに決定して、会員の皆様にお知らせします。皆さんと語り合いたいテーマ、研修として聴きたいテーマ等がありましたら、事務局にメールやFAX等でお寄せください。会員の皆様のニーズに沿ったおしゃべり交流会を企画できるよう、皆様からのご意見、ご要望をお待ちしています。



根本昌彦先生の講話

ゆうあいサークル2



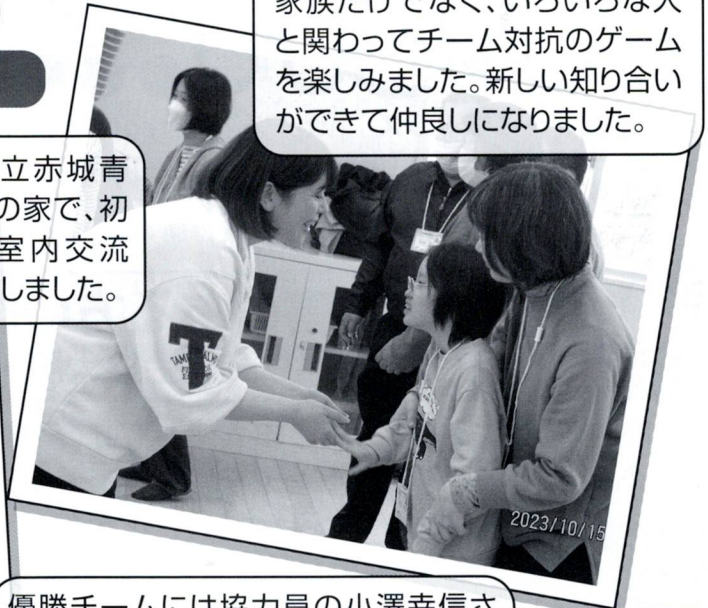
交流ゲームとリンゴ狩り

10月15日(日) 10家族26人名参加

家族だけでなく、いろいろな人と関わってチーム対抗のゲームを楽しみました。新しい知り合いができて仲良しになりました。



午前は国立赤城青少年交流の家で、初体験の「室内交流ゲーム」をしました。



優勝チームには協力員の小澤幸信さんから大きなお菓子が!!「やったー」。



コロナ禍ですとできなかった他の家族との交流ができて、みんな笑顔満点!



午後はいよいよ「リンゴ狩り」木村農園で真っ赤なリンゴをもぎ取りました。今回のリンゴは『あかぎ』と『秋映』でした。リンゴ畑の中を歩くだけでいい香りでした。

ゆうあいサークル3

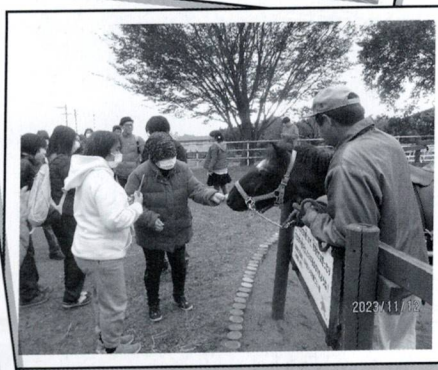
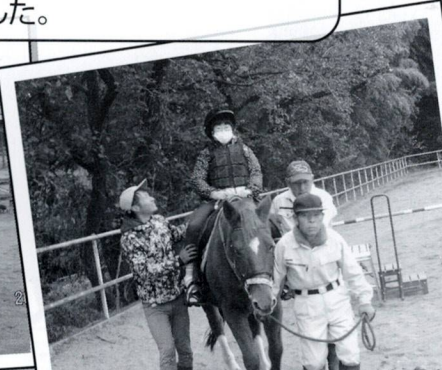
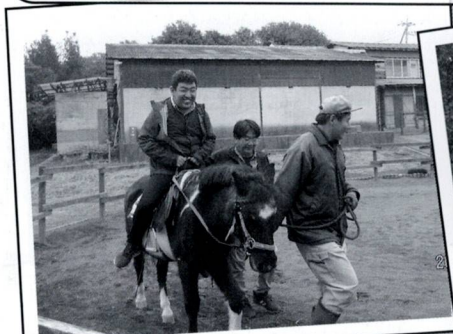
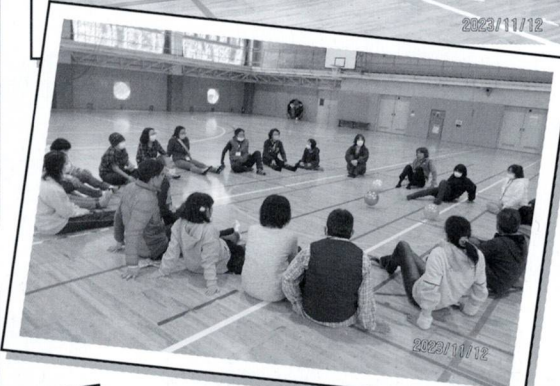


体育館でのレクリエーションと乗馬

11月12日(日) 10家族21名が参加

前回の室内ゲームが好評だったので、今回は広い体育館でみんなでレクリエーションで楽しみました。音楽に合わせて『かもつれっしゃ』『しろくまのジェンカ』などで楽しく交流しました。『ぞうさんのくもの巣』が人気で、リクエストに応じて何回もやりました。赤チーム・黄チーム・青チームに分かれての対戦では、初めは赤チームと青チームが優勢、でも黄チームも挽回しました。勝ったチームは自分でお菓子を選んで「にこっ」。盛り上がって楽しかったね!

午後は「レオナルド・ダ・ヴィンチ牧場」で、お待ちかねの乗馬体験。初めは緊張していた人もいましたが、多くは「早く乗りたい」と身を乗り出していました。馬に乗りながら手を振ってくれた人もたくさんいました。



となりのポニーにも乗せていただきました。ポニーは小さいので親しみが持てます。頭をなでたり「ありがとう」とお礼を言ったりしました。



最後はポニーにニンジンをおあげしました。おいしそうにたくさん食べてくれました。寒い日でしたが、馬とたくさん触れ合っただけで心が温くなりました。お別れが寂しかったね。

ボウリング大会

12月10日(日) 13家族29名が参加

人気が高いボウリングなので今年は10レーンお借りしました。協力員の小澤幸信さんが、豪華景品を準備してくださいました。



優勝した
山崎 海さんのコメント

「ボウリングは小学生のころからやっています。今は年に1度だけになってしまったけれど、今日は158点とれたのでうれしいです」

小学生・兄弟の部で優勝した
海老澤奏杜君のコメント

「ボウリングは大好き。優勝できてうれしいです」



数年続けて参加してくれた人は、「去年よりずっと上手になったね」と、周りの人から言われて得意そうでした。



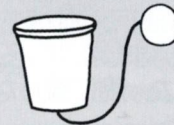
11月4日(土)

上川淵地区「のびゆく子どものつどい」への参加

協力員の塩原大輔さんが提案してくださり、富士見地区に続いて上川淵地区でも「のびゆく子どものつどい」に参加させていただきました。



当日は地域にある第1・第2作業所を中心とした手作り作品を販売しました。特に「ぐんまちゃんのコースター」や「そばがらまくら」が人気でした。



テントの中では、オリジナルキャラクターのけん玉とぬり絵、どんぐりを使った小物や飾り作りをしました。

「自分なりのけん玉ができて、楽しく遊べそうだ」とうれしそうに持ち帰っていました。

活動紹介
コーナーです。

地域の方がたくさんいらっしやっただので、啓発につながったと思います。




令和5年度『料理教室』



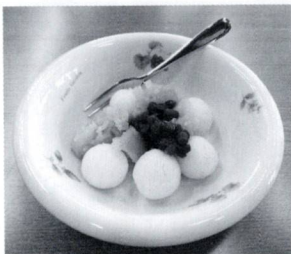
1月21日(日) 宮城公民館 参加者／ご本人10名 家族6名 支援者22名 計38名

宮城公民館との共催で、料理教室を開催しました。

今回は、宮城地区の食生活改善推進員のみなさんが、地元で収穫したサツマイモと小豆を使った『サツマイモあんの白玉だんご』。

粉を練ってコロコロと手で丸め、熱湯の鍋に入れるとふわっと浮き上がってきました。ほどよい甘さでみんな「おいしい」と大満足！

地元の宮城作業所、大胡作業所の方や宮城小学校、若葉学園の方の参加もうれしいですね。



この日は「ぐんまちゃん食育カルタ」も楽しみました。「いただきます お食事前のお約束」など、遊びながら学ぶことができました。



みんな真剣に札を取っていました。



☆ 令和5年度『手をつなぐ作品展』 ☆

令和5年度は、全公民館及び市役所と、第五コミセンで開催することができました。



上川淵公民館



下川淵公民館



清里公民館



東公民館

それぞれの公民館では、様々な企画を工夫してくださり、「文化祭の時期に合わせて同時開催」「人権週間に合わせて標語の掲示も一緒に」「地域のサークル活動と合同開催」「地域の特別支援学校や福祉事業所の作品も一緒に展示」「地域の小中学生の作品展示も」など、主体的に素晴らしい取り組みをしてくださっています。

また、市民の方への周知は必要かと思いますが、お寄せいただいた多くのアンケートから、市民の皆さんの障害のある方への温かい心が伝わってきます。

令和6年度も、皆さんの地域にお邪魔します！！

関口純子副会長 群馬県社会福祉大会にて県知事表彰を授章

令和5年11月9日、県庁昭和庁舎で開催された「令和5年度群馬県社会福祉大会」において、本会副会長として永年活躍していただいている関口純子氏が、県知事より表彰されました。

関口純子氏は平成17年より現在まで本会の副会長を務めていただき、また知的障害者相談員としても永年ご尽力くださっています。今回の県知事表彰を心よりお慶び申し上げます。



「手をつなぐ育成会関東甲信越大会 栃木大会」に参加して

令和5年11月18日、関東甲信越ブロック大会が栃木県宇都宮市で開催されました。

昨年に続き、会場に集合しての対面開催、そして今回は更に分科会も復活して実施され、やっと通常の「関ブロ」が戻ってきた、という感慨を抱きながら参加してまいりました。

式典等、午前中のプログラムはほぼ定例通りでしたが、午後の分科会では、「さすが関ブロ！」と思わせるような、有名な方がパネラーとして並んでいて、大変有意義で刺激的なお話をたっぷり聴かせてもらいました。

私は、「教えて！私たちのこどもの卒業後の暮らし」というテーマの分科会に参加しました。タイトルの、特別支援学校を卒業して、はじめての第一歩的な部分についての内容が中心かとイメージしていましたが、実際には、卒業後から親なきあとの住まい、高齢化に伴うサービスまで、つまり大人になってからのすべての時期に関わる内容で、基調講演の菊地月香氏（社会福祉法人同愛会理事長）をはじめ、パネラーの皆さんもそれぞれの持ち場で、非常に積極的に、障害者の暮らしを支えるサービスや仕組みを次々と展開されていることが、良く伝わってくるお話でした。

特に、「同愛会」の活動は驚くほど多彩で、栃木県内で北は那須塩原市から南は益子町、そして宇都宮市や大田原市、那珂川町等々、かなり広範囲で展開し、事業内容的にも児童関係、障害関係、高齢関係、相談支援等、そして温泉旅館やバイクカフェまで、本当にあらゆる世代、ニーズに応えられる事業展開をされているとのことでした。そしてそれぞれが決してバラバラに運営されているわけではなく、特に温泉旅館は働きの場所であり憩いの場でもあり、そして市民との交流の場でもある、といった存在として機能されているとのこと。足りないサービスがあれば、自分たちで様々なサービスを活用しながら次々と生み出す姿勢も明確に持たれていて、自治体からの要請を受けて、資源のない地域にも新たなサービスを生み出されているようです。

ここまでの実践を、身近な地域の法人等に期待してしまうのは、とても難しいこととは思いますが、支援されている方やご家族の思いに正面から向き合い、既成の社会資源の枠にとらわれず、ニーズに合わせて事業展開を組み立てていく姿勢は大いに学ぶべきところがあり、小さなところからでも一つ一つ実現していくことが大切だと思いました。

他のパネラーの方も、わずかな持ち時間でそれぞれの活動等を紹介してくださいましたが、本当に興味深い実践をされている方ばかりで、今後あらためて、時間をかけてお話を聴かせてもらえるような機会（研修等）を持たせていただければと思いました。

（事務局長 前川）



「卒業生の皆様へ」(社会人になられる方と保護者の皆様へ)

今春、特別支援学校等を卒業し、一般企業へ就職される方、福祉サービス事業所に通所される方、またその他新たな活動を始める皆様、まずはご卒業本当におめでとうございます。保護者の皆様、長い学生生活への支援、本当にご苦労様でした。

前橋市手をつなぐ育成会では、障害のある方やご家族が、安心して活き活きと暮らし続けることができるような地域づくりを目指して活動し、そのために必要な情報をわかりやすく提供できるように様々な活動を行っています。是非、卒業後も本会の会員として登録していただき、必要な情報や、一緒に楽しむための機会を共有していただければと願っています。ただし、これまでは学校を通じて会員を継続するための案内が、毎年届いていたかと思いますが、一般企業へ就労される方や、新しい福祉サービス事業所などで、まだ本会との連携が十分に出来ていない事業所に通所される方には、入会案内が届かなくなる可能性が高くなります。そういった場合は、メール、FAX、郵送等で「入会希望」あるいは「会員継続希望」の意思をお伝えいただければ、個人向けの「入会案内」を送らせていただきますので、下記にご連絡をお願いいたします。

これからもしっかりと皆さんと手をつないで、活動を充実させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先：E-mail: info@m-teotunagu.moo.jp

FAX：027-288-8430

〒371-0014

群馬県前橋市富士見町田島 253-2 「手をつなぐ家」



現在の
会員数

	本人・家族	支援者	合計
小学校	81	169	250
中学校	10	71	81
支援学校	29	35	64
施設	281	141	422
団体	47	28	75
個人	46	90	136
合計	494	534	1,028